

会場：ビジターセンター（県庁舎 2 階）

13:05～13:20	1 遮光によるアユのコツキ症状の発生抑制 <p style="text-align: right;">水産試験場 水産環境係 塩澤 佳奈子</p>
課題要旨	飼育時のストレスによりアユの体表が損傷する「コツキ」の発生抑制には、遮光が有効だとされている。今回、コツキの発生を抑制するための遮光条件および遮光条件下における飼育密度について検討したので報告する。
13:20～13:35	2 アユにおける胸腺の発達が冷水病耐性に与える影響 <p style="text-align: right;">水産試験場 水産環境係 鈴木 究真</p>
課題要旨	アユは稚魚期に高水温で飼育すると免疫器官である胸腺の発達が抑制されることが明らかとなっている。そこで、様々な水温で飼育したアユ稚魚を用いて胸腺の発達と冷水病に対する耐性について調べたので、その結果を報告する。
13:35～13:50	3 画像解析によるアユ卵自動計数法の開発 <p style="text-align: right;">水産試験場 水産環境係 阿久津 崇</p>
課題要旨	水産試験場で行うアユの種苗生産では、平均卵重を算出するために卵数を目視で数える作業を行っている。本発表では、計数作業の省力化を目的として画像解析によるアユ卵の自動計数法を開発したので、その概要を報告する。
13:50～14:05	4 シオミズツボワムシの効率的な培養方法について <p style="text-align: right;">水産試験場 生産技術係 齋藤 駿介</p>
課題要旨	水産試験場では、アユの初期生物餌料としてシオミズツボワムシ(以下ワムシ)をふ化後約 60 日間給餌しており、培養方法の省力化が求められている。そこで、ワムシ培養に要する餌料費や作業労力を削減するため、より効率的な培養方法を検討したので報告する。
14:05～14:20	5 マツカサガイ稚貝の人工飼育 <p style="text-align: right;">水産試験場 水産環境係 鈴木 紘子</p>
課題要旨	マツカサガイは、ヤリタナゴの産卵母貝として利用される淡水二枚貝であるが、群馬県における生息数は激減している。そして、マツカサガイの人工飼育では稚貝期以降の育成が難しく、その増殖方法は確立されていない。今回、乾燥珪藻粉末を飼料として、稚貝の育成を試みたのでその結果を報告する。
休憩 14:20～14:40	
14:40～14:55	6 遊漁規則を読み解く～溪流魚の尾数制限編～ <p style="text-align: right;">蚕糸園芸課 水産係 渡辺 峻</p>
課題要旨	県内 11 の河川漁業協同組合は、資源安定化を目的に、遊漁規則でヤマメ・イワナ・サクラマス等の尾数制限を定めている。今回、この制限が設けられてから約 20 年が経過したため、近年の研究結果や情勢を踏まえ、改めてこの尾数制限について考察したので報告する。
14:55～15:10	7 吾妻川支流における県内初のブラントラウト定着事例 <p style="text-align: right;">水産試験場 川場養魚センター 山下 耕憲</p>
課題要旨	令和 3 年に吾妻川水系で自然繁殖由来と考えられるブラントラウトの生息が確認された。その後、当該河川を管轄する吾妻漁協による駆除と水試による生息状況調査が行われている。そこで、現時点で判明している当該・近隣河川におけるブラントラウトの生息状況について報告する。
15:10～15:25	8 ギンヒカリ早期成熟に関する聞き取り調査 ～3 年成熟率は変化したのか？～ <p style="text-align: right;">水産試験場 川場養魚センター 新井 肇</p>
課題要旨	県産ブランド魚であるギンヒカリの生産は 20 年あまり行われているが、生産現場では 2 年目の早期成熟が問題視されている。そこで、その状況について聞き取り調査を行ったので、その結果を報告する。
15:25～15:40	9 ギンヒカリ早期成熟状況と対策 <p style="text-align: right;">水産試験場 川場養魚センター 井下 眞</p>
課題要旨	3 年成熟系ニジマスであるギンヒカリは、生産現場において 2 年目の早期成熟による生産ロスが問題となっている。そこで、特定の条件で飼育したギンヒカリの 2 年目成熟状況および 4 年目に成熟したギンヒカリから作出を試みている成熟遅延系の生産状況について報告する。